

# 農学生命科学部 第12回 研究推進セミナー

【第31回 発生・生殖生物学研究室コロキウム 共催】

【新学術領域研究 配偶子産生制御 共催】

## 1種類の貪食細胞によるヒトデ幼生の免疫システム

演者：古川 亮平 先生

慶應義塾大学 自然科学研究教育センター

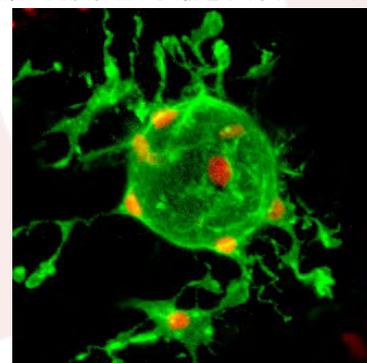
文学部 生物学教室 助教

日時：平成29年9月4日（月）

17:40～19:10

場所：弘前大学農学生命科学部402室

複数の免疫細胞が異物を取り囲んでいる様子



今から120年ほど前、免疫を担う細胞が存在することをわたしたちに教えてくれたのがヒトデの幼生です。しかし、細胞性免疫学の扉を開いた記念碑的な動物であるにも関わらず、その後100年近くもの間、ヒトデの幼生は免疫学の歴史の片隅に忘れ去られた存在でした。

一方、ヒトデの幼生には1種類の免疫細胞しか存在しないため、「最もシンプルな細胞性免疫システムとはどのようなものか？」という問題を考えるのに非常に適した動物です。本セミナーでは、幼生の免疫細胞が異物に対してどのような行動を示すのかについて、細胞、分子レベルでのこれまでの成果を紹介しながら、「自己とは何か？」「種とは何か？」という生物学の大命題に繋がる比較免疫学研究の面白さについてお話したいと思います。

主催：農学生命科学部生物学科 発生・生殖生物学研究室

小林一也（内線3587 kobkyram@hirosaki-u.ac.jp）

共催：研究推進委員会 学部後援会